

平成 26 年度 受賞者

高円宮殿下記念地域伝統芸能賞

山形県花笠協議会（山形県山形市）

地域伝統芸能大賞 保存継承賞（第 1 類）：地域伝統芸能の実演に係わる団体又は個人

東通村郷土芸能保存連合会（青森県下北郡）

地域伝統芸能大賞 活用賞（第 2 類）：地域伝統芸能を活用した行事の実施主体

成田祇園祭実行委員会（千葉県成田市）

地域伝統芸能大賞 支援賞（第 3 類）：衣装、用具等の製作、人材等の確保に係わる団体又は個人

匠乃会（新潟県南区）

地域伝統芸能大賞 地域振興賞（第 4 類）：その他特に顕著な貢献のあったもの

全国太鼓フェスティバル実行委員会（岩手県陸前高田市）

地域伝統芸能奨励賞

香川 良子（篠笛の演奏、活動）（東京都八王子市）

受賞者 プロフィール

高円宮殿下記念地域伝統芸能賞

山形県花笠協議会（山形県山形市）



花笠踊りの起源は、田植え踊り、工事の土突き歌など諸説あるが、昭和初期に「花笠音頭」と呼ばれるようになり、山形県内各地域に存在している。

山形花笠まつりは、昭和 38 年（1963）に「蔵王夏まつり」のイベントの 1 つとして始まった。昭和 40 年からは単独の「山形花笠まつり」として行う現在の形になり、毎年 8 月 5～7 日の 3 日間、山形市内のメインストリートで開催され、まつり期間中には約 90 万人の観光客が訪れるなど、東北 4 大まつりの一翼を担って、ますます賑わいを見せている。

華やかに彩られた蔵王大権現の山車を先頭に、艶やかな衣裳と花笠を手にした踊り手が、「ヤッショ、マカショ」の威勢のいい掛け声と花笠太鼓の勇壮な音色に合わせて群舞を繰り広げる華麗なまつりである。

踊りは地域や参加団体によって違いがあり、昔からの形を残すものから新たな工夫をするものまで、種々あることも魅力の一つとなっており、伝えられた良いものを活かしつつ、新しいものにも幅を広げている祭りになっている。

山形花笠協議会は、このまつりの開催に中心となって尽力しており、山形花笠踊りの保存・継承、また、地域の観光振興・商工業発展に顕著な貢献をしている。

地域伝統芸能大賞 保存継承賞（第 1 類）：地域伝統芸能の実演に係わる団体又は個人

東通村郷土芸能保存連合会（青森県下北郡）



下北の能舞は、中世芸能の面影をよく残している修験能であり、日本演劇史上極めて重要な芸能であるといわれる。今から五百年以上も遡ったころから、ここ東通村の 14 集落で伝承されており、当時流行した猿楽、田楽、延年などの諸芸能を取り入れながら創作されたという。全国各地には修験者が伝えたと言われる芸能が数多く残っているが、能舞は修験能の典型だと言われている。そのことが認められ、平成元年に国の重要無形民俗文化財の指定を受けた。正月三が日並びに小正月には、村内各集落の集会所等において深夜に至るまで 10 演目程度披露されている。

東通村郷土芸能保存連合会は、能舞やその他県の無形民俗文化財の指定を受けた神楽、獅子舞の各会を纏め上げて昭和 40 年に結成され、これら郷土芸能の保存継承に努めるとともに、主な活動として年 1 回の郷土芸能保存連合会発表会を村体育館で開催し、幅広い PR 活動により村内外からの集客に努め、県外からの来場者も年々増加している。その他、各種研修会や全国各地での能舞公演など、村内はもちろん全国各地で活動を実施しており、地域伝統芸能保存継承と、それによる地域の振興に大きく貢献している。

地域伝統芸能大賞 活用賞（第 2 類）：地域伝統芸能を活用した行事の実施主体

成田祇園祭実行委員会（千葉県成田市）



成田祇園祭は、7 月初旬の金・土・日曜日に開催される千葉県成田市の成田山新勝寺のご本尊「不動明王」の本地仏である奥之院・大日如来の祭礼のことで、正確には「成田山祇園会」と言う。成田祇園会は、1721 年（享保 6 年）の文章の中に権現の祭礼を行ったとあり、約 300 年にわたる歴史がある。現在では、大日如来をご尊体とした御輿渡御や、9 町内 10 台の山車や屋台の引き廻しが行われる成田の一大イベントであり、3 日間で約 45 万人の人々が訪れ、参道を中心とした飲食店や土産物店はお客様であふれかえる。

成田祇園祭実行委員会は、昭和 48 年の結成以来、祭りの中心となって、各種課題に取り組みつつ、毎年事故なく、盛大に執り行っており、地域の観光振興、商工業の振興に大きく貢献している。

匠乃会（新潟県南区）



江戸時代から続く白根大凧合戦は、地域住民が一体となって受け継がれてきた地域参加型イベントである。大凧の大きさは縦7m、横5mで畳24畳分の大きさがあり、これを揚げる凧網は、元網と呼ばれ、径2.5cm、長さ130m、重さ50Kgあり、日本麻を、名人でも100日余をかけて撚りあげるもので、凧合戦の勝敗を大きく左右する。大凧合戦の継承には、資金面や凧の揚げ手等人材の確保が重要であるが、中でも凧網の製作は、重責と技術の難しさから後継者育成が難しい状況にあった。その状況を受けて、平成9年に匠乃会が発足し、凧網製作者の育成を行ってきた。匠乃会の活動により、現在では各組に凧網の作り手がいるようになり、各組の作り手がそれぞれに独自の工夫を凝らすことによって、大凧合戦の一層の盛り上がりにつながり、地域の振興に大きく貢献している。

全国太鼓フェスティバル実行委員会（岩手県陸前高田市）



陸前高田市には、900年以上の歴史と伝統を誇るといわれている気仙町の「けんか七夕」という祭があり、毎年8月7日に開催されている。「けんか七夕」とは、4tを越える山車と山車が激しくぶつかり合うエキサイティングな祭で、ぶつかり合うときに山車の上で激しく打ち鳴らされているのが「けんか七夕太鼓」である。この「けんか七夕太鼓」を活用して地域起こしをとの思いから「全国の太鼓団体を集めて何かイベントができないか」という有志の発想となり、「全国太鼓フェスティバル」というイベントが平成元年から実施されるようになった。大会では、全国の有名な伝統太鼓や創作太鼓が競演し、勇壮で華麗な太鼓が県内外から詰めかける約3,000人の観衆を魅了する。全国を代表する太鼓団体が出演することから、年々人気が高まり、今では太鼓の甲子園とも呼ばれるようになり、全国各地から出演希望が沢山寄せられるほどの全国屈指のフェスティバルとなっている。平成23年は、地震津波災害のため、実施できなかったが、翌24年から再開し、陸前高田市を広くPRしながら、地域活性化と観光客の誘致に大きく貢献している。

香川 良子（東京都八王子市）



篠笛は里神楽や祭囃子などで用いられる日本伝統の楽器である。氏の父、隆樹氏は、里神楽や八王子の祭囃子など南武蔵に伝わる民俗芸能を伝承し演じる社中を結成し、八王子市を中心に活動している。良子氏は、笛、太鼓、鉦などを演奏する囃子方に育ち、6歳の時八王子まつりで初舞台を踏んで以降、毎年8月の八王子まつりの山車で八王子の祭囃子を演奏し、社中の中心として活躍している。また、篠笛の新しい魅力の発掘として、ポピュラーからクラシック音楽まで演奏の幅を広げ、独奏による演奏会も行っており、隆樹氏とともに、国際的に篠笛の良さを伝える活動を行っている。民俗音楽でも篠笛は太鼓や三味線等との合奏が普通で、独奏は極めて少なく、氏の挑戦は画期的なものであり、「竹の音色で日本を伝えたい」という氏にこれからの活躍を期待したい。